vol.403
農政連情報誌

みどりの風

2023
8
令和5年

今月の表紙「自慢の畑」（撮影：釜　沙織 様）　第11回 未来に伝えたい農業・農村の風景フォトコンテスト入選作品

CONTENTS

■JA熊本中央会・各連合会　通常総会を開催
■野村農水大臣、藤木農水政務官へ緊急要請
■G7広島サミットが被爆地広島県で開催
■参議院議員 藤木しんや氏コラム
■参議院議員 山田としお氏コラム
■地域農業のリーダー
■中央会・連合会からのお知らせ

あぜみち

新鮮な野菜や果物が描かれた大型トラックが、目の前を走っていく。くみあい運輸の車だろうか。今、大きな話題となっているのが物流の「２０２４年問題」である。物流業界は高齢化と人手不足、長時間労働が深刻になっている。このうち長時間労働については、これまでトラック運転手には時間外労働の上限規制がなかった。だが、２０２４年４月からは、働き方改革関連法に基づく新たな労働基準法が適用され、年９６０時間に制限される。そうなるとさらに人手不足が進んで物流に影響を与えることが予想され、このことが「２０２４年問題」と呼ばれる所以である。

働き方改革による残業時間の制限は、労働環境の改善につながる半面、人手が足りなくなり、配送の遅れや欠品、配送料の上昇につながるなどの懸念が出ている。野村総合研究所は、２０２５年には全国の荷物総量のうち約28％、２０３０年には約35％が運べなくなるとの推計を公表している。これに対し、業界もあの手この手で対策を模索している。物流各社は、１台で大型トラック２台分の荷物を運べる「ダブル連結トラック」の活用やトラック輸送から船や鉄道に転換する取り組みも加速している。また、各メーカーや小売業界は配送の共同化を展開している。先ごろは、ヤマト運輸が宅急便の配達が１日遅れることを発表した。牛丼チェーンの吉野家では、定年を迎えた社員をトラック運転手として再雇用する制度を検討している。

食料安全保障の観点から食料が国民へ行き渡らないことがあってはならない。この問題には物流業界や卸、ＪＡ、農業者、消費者が一体となって考えなければならないものだと思う。

JA熊本中央会・各連合会　通常総会を開催

JA熊本中央会・各連合会は、6月30日、JA熊本経済連7階ホールにて通常総会を開催しました。

中央会および各連合会の令和4年度事業報告・収支決算・役員選任等の各議案について承認されました。

総会で、JA熊本中央会の宮本隆幸会長は「生産資材価格の高騰等により、今、わが国の農業は存続の危機にさらされている。この危機を乗り越えるための対策に取り組むとともに、農家が安心して営農を継続できる体制を整えていかなければならない。今後も持続可能な農業の確立と、それを支える本県JAグループの在り方について、皆様方と知恵を出し合いながら取り組んで参りたい」と挨拶しました。

▲通常総会で挨拶を行うJA熊本中央会の宮本隆幸会長

中央会は、令和4年度事業報告で、県域JAの実現に向けた取り組みの実践、農業者の所得増大等に向けたJA自己改革に対する総合的な支援の実践、持続可能なJAの組織・経営基盤確立に向けた総合的な支援の実践、農業・地域の課題解決に向けた農政活動の実践、等の重点取組み事項を説明しました。

JA熊本経済連の丁道夫会長は、挨拶で「国内農業は、頻発する自然災害や高齢化・担い手不足による農業者の減少、燃油・肥料・資料等の資材価格の高騰による生産コストの上昇が、農業生産基盤に深刻な影響を与えかねない状況にある。品目別の販売促進活動を強化するとともに、生産資材の価格が高騰する中、仕入機能の強化を図り、コスト低減に取り組む」と述べました。

▲通常総会で挨拶を行うJA熊本経済連の丁道夫会長

総会では、令和4年度の基本戦略、「生産基盤の拡大と県産農畜産物の販売力発揮」「生産・流通コストの低減と事業競争力の強化」「経済連グループ経営基盤の強化」「県域JAへの取組」を基に事業別取組事項を報告しました。

厚生連は、将来を見据えた健康管理事業の推進強化、施設検診の機能強化と持続可能な診療業務の展開、巡回検診における受診環境の整備、産業保健活動の積極的な展開と健康づくりへの取り組み、等の取組事項を説明しました。

役員選任では、JA熊本中央会会長に宮本隆幸氏（JA熊本市）を、JA熊本経済連会長に丁道夫氏（JAあしきた）をそれぞれ再任しました。

▲通常総会の様子

中央会・各連合会の役員は次の通りです。

◆中央会

▽代表理事会長＝宮本隆幸（再・JA熊本市）
▽副会長理事＝福田勝徳（再・JAくま）
▽常務理事＝山本浩二（再・学経）
▽代表監事＝久保英広（新・JAたまな）

◆経済連

▽代表理事会長＝丁道夫（再・JAあしきた）
▽副会長理事＝山住昭二（新・JAやつしろ）
▽代表理事専務＝梶原哲（再・JAかみましき）
▽代表理事常務＝多久嘉秀（再・学経）
▽代表監事＝久保英広（新・前掲）
▽常勤監事＝髙濱泉（再・学経）

◆共済連

▽運営委員会会長＝宮本隆幸（再・前掲）
▽運営委員会副会長＝原山寅雄（新・JA阿蘇）

◆厚生連

▽代表理事会長＝宮本隆幸（再・前掲）
▽副会長理事＝福田勝徳（再・前掲）
▽代表理事常務＝西野良二（再・学経）
▽代表監事＝久保英広（新・前掲）

◆県JAバンク運営協議会

▽運営協議会議長＝宮本隆幸（再・前掲）
▽運営協議会副議長＝﨑本和人（新・JAあまくさ）

◆県農業信用基金協会

▽会長理事＝丸田博雄（新・JA熊本うき）
▽専務理事＝岡山幸市（再・学経）

野村農水大臣、藤木農水政務官へ緊急要請

～農業生産資材高騰等に関する緊急要請を実施～

ＪＡグループ熊本と熊本県農業者政治連盟は、6月2日、野村哲郎農林水産大臣と藤木しんや農林水産大臣政務官を農林水産省に訪ね、農業生産資材高騰等に関する緊急要請を行いました。

コロナ禍やウクライナ侵攻、円安等を背景とした農業生産資材高騰が続いている中で、食料や資源の多くを海外に依存している我が国の食料安定供給リスクが顕在化しており、食料安全保障の強化に向けた対応が求められています。このような中、農業生産資材価格の高騰・高止まりは長期化し、生産現場では負債増加等を理由に離農者も出始めるなど、営農継続の危機がさらに深刻化しています。生産資材等のコスト上昇分を農畜産物価格へ転嫁できていない現状において、生産資材価格高騰へのさらなる対策を求めるものです。

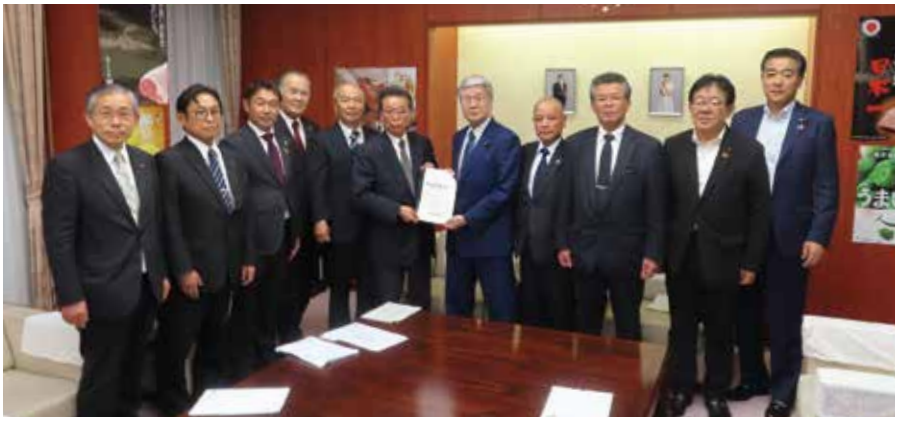
要請書を手渡したＪＡ熊本中央会の宮本隆幸会長は「農業の厳しい経営環境を踏まえ、農業を持続させ後継者を育成するには、一定の農家所得を確保することが重要だ」と訴えました。

要請を受けた野村哲郎農林水産大臣は「農業と国民の食料を守るために政府全体で取り組んでいきたい」と応えました。

ＪＡグループの代表は、同日この大臣等要請の前に、県選出の衆議院議員木原稔氏、西野太亮氏、坂本哲志氏、金子恭之氏、参議院議員の松村祥史氏、馬場成志氏へも同様の要請活動を行いました。

緊急要請の内容

1. 生産資材高騰対策の創設、拡充
2. 物流２０２４年問題による輸送コスト増大への対策
3. 生産資材高騰の影響を受けた農業者への金融支援
4. 口蹄疫等家畜伝染病に対する水際対策の徹底・強化



▲野村哲郎農林水産大臣（右から5人目）に要望書を手渡すJAグループ熊本の関係者

G7広島サミットが被爆地広島県で開催

～強靭なグローバル食料安全保障に関する「広島行動声明」を発表～

ロシアのウクライナ侵攻や中国の覇権主義的な動きへの対応、核軍縮、生成ＡＩ（人口知能）を巡るルール作りなどを主要議題とする先進7ケ国（G7）首脳会議が5月19日、広島市で開幕しました。

G7広島サミットでは、「法の支配に基づく自由で開かれた国際秩序を強化し、ウクライナ支援を継続するほか、現実的なアプローチを通して「核兵器のない世界」に向けて取り組むとする首脳宣言を発表しました。

食料・農業分野では、ロシアのウクライナ侵攻で世界の食料安全保障が悪化しているとして、深い懸念を表明しました。食料の生産・供給体制を強靭化する必要があるとし、既存の農業資源を活用した生産性向上や環境に配慮した持続可能な農業を推進することや幅広いイノベーションの活用に取り組むことを提起しました。

グローバルサウスと初の行動声明

また、首脳宣言とは別に先進7ケ国（G7）首脳は、「グローバルサウス」と呼ばれるインド、ブラジルなど新興・途上の8ケ国首脳と初めて、世界の食料安全保障の強靭化に向けた「広島行動声明」を出しました。世界は現世代で最も高い飢饉のリスクに直面していると警告し、危機への備えなどの必要性を訴えました。

食料不足や物価高騰の影響を受けやすい8ケ国との行動声明は、飢饉回避のため、民間などからの人道・開発支援への投資の増加が必要であると強調しました。

広島行動声明のポイント

1. 食料安全保障の緊急の危機への対応
2. 将来の食料安全保障危機への備えと予防
   (1) 市場の透明性と食料及び栄養の危機への備えを強化するために
   (2) 危機時に推奨される行動に関する共通の理解を深めるために
3. 全ての人のための強靭なグローバル食料安全保障と栄養の実現
   (1) 全ての人々のために食料安全保障及び栄養を前進させるために
   (2) 強靭で持続可能な農業と食料システムを構築するために

▲G7広島サミットに参加した各国首脳等

全国農政連推薦・県農政連公認
参議院議員藤木しんやの
永田町でも百姓宣言

「2023骨太方針と通常国会閉幕」

【食料安全保障の強化に向けて】

6月16日に経済財政運営と改革の基本方針2023、いわゆる「骨太方針」が閣議決定されました。財政・経済、重要政策にかかる政府の基本戦略として、今後、本方針等に基づき、2024年度予算編成作業が本格化します。その中で、今回の骨太方針には、①食料・農業・農村基本法の本年度中の改正案国会提出、が明記されるとともに、②輸入と備蓄を適切に組み合わせつつ、輸入依存度の高い食料・生産資材の国内生産力の拡大等の構造転換を推進し、③平時から食料安全保障の状況を評価し不測時に政府一体で食料の確保等を行う仕組みや、④適正な価格転嫁を推進する仕組み等の検討、⑤稼ぎを重視し、2025年の輸出額2兆円目標の前倒しを目指す、ことなどが重要事項として記載されました。

また、6月21日に閉幕した第211回通常国会ですが、農水省提出法案は林業と漁業関係の4法案であり、例年に比べて農業関係の法案審議は少ない（参考：昨年度6法案）結果となりました。農業関係では、内閣府が提出した、改正構造改革特区法が成立し、現在兵庫県養父市の「国家戦略特区」のみで認められている企業等による農地取得について、9月の施行後は自治体の申請に基づき可能となる、「改革構造特区」へ移行することになります。

予算編成や国会スケジュールと平行して、農水省内では食料・農業・農村基本法改正に向けた取り組みが進められています。まず、7月18日さいたま市に始まり、全国11都市（札幌市・帯広市・仙台市・金沢市・名古屋市・京都市・岡山市・高松市・熊本市・宮古島市）で地方意見交換会が開催されます。この場で、農水省作成「中間とりまとめ」について、一般公開（傍聴申込は各ブロック農政局等に要問合せ）の上、関係者による意見交換が実施されます。同時に農水省ホームページでは、7月22日までとりまとめに関する意見・要望の募集がなされます。

食料安全保障の強化と持続可能な農業の実現に向けて、皆さまもぜひ自分事として、日々の生活の中で何が出来るか、この機会にご検討頂けないでしょうか。そして、お気づきの点やお考えをお聞かせください。皆さまのご意見・ご要望を国政に届けるため、引き続き日々の公務に邁進してまいります。

▲御田植祭での神事（八代市）

全国・県農政連推薦
参議院議員山田としおの
農政問題に斬り込む

食料安全保障政策の確立に全力をあげよう

最大の課題は農業従事者の高齢化と担い手の減少の克服

食料安全保障政策の確立が叫ばれています。その具体策となると、簡単ではありませんが、とりわけ我が国の農業従事者の高齢化の状況や、担い手の著しい減少の動きをしっかりと把握し、早急に対策を講じなければなりません。農業従事者の所得実現がどの程度の水準になっているのか、魅力のあるものになっていないのではないのか等、分析と確認をし、この問題に対処しなければならないのです。

国や地域の政策確立に全力をあげよう

国や地域の政策としても、相当の努力がなされていますが、その成果は必ずしも十分なものになっていない状況です。これからさらに、どう克服するのか、そのための取り組みをどう進めるのか、徹底して検討し、その手順や政策を充実させなければなりません。もちろん我が国の国土の制約を考えてみれば、進展させることは容易ではありませんが、政策推進と地域や自治体や農業者の工夫で、この難局を乗り越えていかねばなりません。

地域と国民の支えのもとJAと自治体は大運動を展開しましょう

将来へつながる担い手対策が必要だということを、国民と政府が同意し、各地の特性を踏まえた形で、作業受委託や集落営農、法人化や規模拡大等の取り組みが大々的に講じられてきています。それとあわせて、世界各国の取り組みに先行して、我が国における食料安全保障の取り組みを、しっかりと具体化することが大切なのです。それを成し遂げるには、地域に根差し、地域の実情を熟知しているJAと自治体が中心になることが求められていると思います。全国のJAと農業者と地域は、一体となって、求められる食料安全保障の確立を目指して、全力を上げましょう。

▲青壮年組織の定期総会にて

地域農業のリーダー

～JA菊池青壮年部活動報告～

JA菊池青壮年部は、菊池地域8支部（菊池、七城、旭志、泗水、合志、西合志、大津、菊陽）があり、盟友274名で構成しています。「農業者の所得増大」「農業生産の拡大」「地域の活性化」に向けて様々な活動を行っています。

▲令和4年度の新役員のメンバー

チャレンジコンペティション大会

平成27年度から始めた「チャレンジ事業コンペティション大会」は盟友が挑戦してみたい事業を発表し競う大会であり、最優秀賞に輝くとJAから50万円、青壮年部活動から10万円が贈られ、実際に発表した事業に取り組むことができます。令和4年度は、酪農家が脱臭資材を使って牛舎の匂いを軽減し、畜産地帯のイメージの改善や地域住民の住みやすさ向上を目指す発表をした旭志支部の「ニオイが永遠のテーマ」が最優秀賞に輝きました。

▲チャレンジ事業コンペティション大会で発表を行う盟友

婚活と食農教育活動

JA菊池が主催する青壮年部盟友向けの「婚活事業」は、一泊二日の婚活ツアーで、菊池の観光名所を巡りながら仲を深めます。平成30年から始まった婚活ツアーは、現在まで8回開催、毎回多くのカップルが成立し、今までに9組が結婚しました。

食農教育活動にも力を入れており、支部ごとに地域の小・中学校、幼稚園等で体験学習などを行っています。米の種まき・田植え・稲刈りやさつまいもの苗植え・収穫体験、ニンジンの収穫体験など各支部の特色に合わせた食農教育活動を積極的に行っています。

▲食農教育活動で小学生を招いての米の種まき

学習会活動

青壮年部学習会では、盟友が今一番学びたいことをテーマに掲げて開催しています。最近では、税理士を招き節税対策のポイントやインボイス制度について学びました。

▲一番学びたいことをテーマに学習会を開催

全国から視察受入れ

全国の青壮年部からの視察も多く、令和4年度はJAいぶすき青年部、JA東京むさし青年部の受入を行い、全国盟友との意見交換も行いました。

▲全国からの青壮年部を受け入れての視察の状況

その他にも、JA役職員との意見交換会の場も定期的に設け、若い農業者の思いや様々な問題を役職員に提起しています。今後も、地域農業・農村の振興に関する運動を積極的に展開していきます。

JA中央会

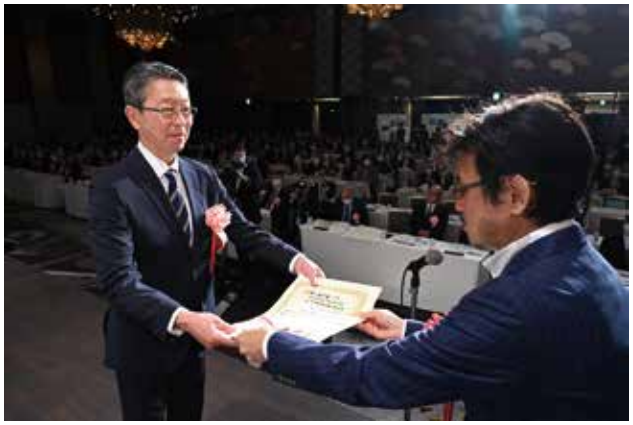
JAくまの「球磨茶ぷりん」が金賞を受賞

日本農業新聞は5月11日、東京都千代田区で令和5年度日本農業新聞全国大会を開き、JA代表者ら430人が参加しました。

本紙の記事と情報を活用し「不断の自己改革」を成し遂げることを確認し、読者の拡大運動の徹底や、組合員との対話の強化に向けた購読・活用に取り組むことを申し合わせました。

日本農業新聞が開催した、「第19回日本農業新聞一村逸品大賞」の中央審査会において、JAくま販売センターが販売する「球磨茶ぷりん」が大賞に次ぐ金賞を受賞しました。

同センターの黒木久美さんは「厳選された球磨茶の一番茶にこだわり開発した自慢の加工品。発売から1年の商品が評価されたことはありがたい。今後も地元農産物を使った加工品の開発に力を入れたい」と話しました。



▲表彰を受けるJAくまの渡瀬幸一参事

▲金賞を受賞した「球磨茶ぷりん」

▲左からJAくまの黒木久美さん、審査委員長のやくみつるさん、JAくまの吉田眞優さん

JA経済連

熊本城災害復旧支援金として「純米かすてら」売上金の一部を熊本市に贈呈

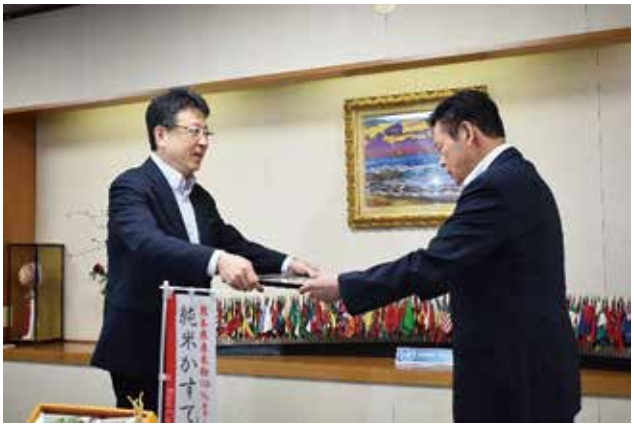
JA熊本経済連グループは6月9日、熊本市役所で大西一史熊本市長に熊本城災害復旧支援金として「純米かすてら」の売り上げから35万円を贈呈しました。

支援金は、同連が2022年5月より販売を始めたオリジナルスイーツ「純米かすてら」の売り上げの一部です。同商品は、熊本県内でも多くの人が生産する米の6次化商品として、県産米粉100%にこだわり開発しました。パッケージには県内の観光名所をデザインし、米の消費拡大や観光PR、復興支援を目的に販売しています。

JA熊本経済連の丁道夫会長は「熊本城の復興支援を継続するとともに、食と農を通じて熊本を元気にしていきたい」とあいさつしました。

大西一史市長は「復興支援金はありがたい、生産者の活力、地域活性化に繋がるようなおいしい商品をこれからも全国へ発信してほしい」と述べました。

▲純米かすてら寄付金贈呈の様子



▲感謝状を受け取る丁道夫会長

JA共済連

令和5年度 JA共済全国小・中学生書道コンクールおよび交通安全ポスターコンクールを開催します！

JA共済では、JA共済全国小・中学生書道・交通安全ポスターコンクールを開催します。今年で書道コンクールは67回目、交通安全ポスターコンクールは52回目を迎えます。当コンクールは地域貢献活動の一環として、小・中学生の書写教育ならびに美術教育の高揚を図るとともに、交通安全思想を広めることを目的として開催しています。

令和4年度の書道コンクールには県下643校の小・中学生の皆さんから20、848点の作品の応募があり、交通安全ポスターコンクールには県下195校の小・中学生の皆さんから1、289点もの作品が寄せられました。小・中学生の皆さん、ぜひこの夏に取り組んでみませんか。

熊本県大会で特別賞に輝いた作品は全国大会に出品されます。皆さんの努力と発想力に満ち溢れた作品をお待ちしております。

詳しくはお近くのJA窓口もしくはJA共済の書道・交通安全ポスターコンクール特設ホームページをご確認ください。

ホームページURL：
https://social.ja-kyosai.or.jp/contest/index.html

【令和4年度 熊本県知事賞作品】

▶熊本市立出水中学校2年（応募当時）
木原　英理佳さん

▶玉名市立玉名町小学校3年（応募当時）
岩本　海音さん

▶八代市立麦島小学校4年（応募当時）
三島　佳子さん

JA厚生連

肩こりからくる不調

みなさんはしつこい肩こりに悩まされていませんか？

今回は、肩こりからくる心身の不調について解説いたします。

●肩こりとは

肩こりの主な原因は、重い頭を首と肩で支えていることです。

一般的に成人であれば頭の重さは五から六キロ程度で、肩にかかる負担はかなりのものです。

また、肩こりの症状が長期的に続くと、自律神経の乱れを引き起こし心身の不調につながる場合がありますので、注意が必要です。

●自律神経が乱れる原因

自律神経は、日中活動するための「交感神経」と、睡眠など身体の疲れを回復させるための「副交感神経」をバランスよく保ち、心身の健康状態を正常に調整する働きを持っています。

しかし、緊張状態や過度のストレスが続くと「交感神経」ばかりが優位に働いてしまい、自律神経のバランスが崩れ、心身の不調に陥ります。

また、首回りは神経の通り道であり、頭部を支え動かす役割を持つため、首・肩まわりの筋肉の凝りや神経の圧迫で、自律神経の乱れを引き起こすことに関与していると考えられています。

●自律神経の乱れで起こる主な症状

自律神経の乱れによって起こる症状には、

①頭痛
②疲労感
③冷え性・継続的な微熱
④睡眠不足
⑤ドライアイ・ドライマウス
⑥吐き気や便秘、下痢
⑦筋肉の凝りや関節の痛み
⑧精神疾患

などがあります。

●自律神経の乱れを改善するには

自律神経の乱れを改善するには、生活習慣・ストレス・睡眠不足など様々な原因に対応することが重要です。

また、肩こりを治すことで改善につながる場合もあるので、

①首まわりを動かすストレッチを行う
②首や肩を蒸しタオルなどで温める
③仕事上の姿勢（特にデスクワーク）を見直す
④メガネ等の定期的な調整を行う
⑤血行をよくする栄養素（ビタミンE）を含む食事（ごま、ナッツ類）を摂取する

などの改善策を行い、首・肩まわりの筋肉の緊張や血行不良の改善に努めることも大切です。

しかし、症状が改善されない場合は、そのまま放置せず、早めに医療機関に相談することをお勧めします。

なお、厚生連診療所でも院外処方にはなりますが、「肩こり」に対する診療を行っておりますので気になる方はご相談ください。

農園探訪記

幻想的で美しい
アスパラガスの森へようこそ

今月のシェフズレシピ
「アスパラの冷製スープ」
「アスパラのミラノ風」

hug 54

check here!

JAやつしろアスパラ機械利用組合
アスパラ農家　藤本 学太郎さん（38歳）

「共済」は「助け合い」。地震などの自然災害が
多発するなか、真価が発揮されています。

建物更生共済 むてきプラス

建物更生共済 My家財プラス

くらしの保障、相談するなら

JA共済

※ご加入にあたりましては、お近くのJAへお問い合わせください。
■JA共済ホームページアドレス　https://www.ja-kyosai.or.jp

23439990121

『農業のさらなる発展へ』をテーマに、
労働力不足等に直面している日本の農業生産に欠くことのできない最新農業機械を提案します。
皆様のご来場をお待ちしております!

〔お問い合せ〕JA熊本経済連 農業機械課
TEL：096-328-1181

あとがき

この時期、貰ってうれしいものは何ですか？日頃お世話になっている相手に感謝の気持ちを込めて贈るものにお中元があります。お中元は夏に品物を送りますが、地域によって送る時期が異なるのをご存じですか。7月の初旬だったり、8月の中旬だったり、沖縄では9月の初旬ごろともいわれています。

お中元と同じくお世話になっている相手に贈り物をするものにお歳暮がありますよね。お中元は相手に上半期の感謝を込めて夏に送るものですが、お歳暮は相手に1年間の感謝を込めて冬に送るものです。由来や送る時期など違いはありますが、どちらも相手に感謝の気持ちを伝えるという意味が含まれています。

お中元やお歳暮の品物を包む際に使われるのがのし紙です。こののし紙の右上にある飾りが「夷斗」（のし）です。この夷斗と水引が印刷されているものが「のし紙」です。水引には、蝶結びと結び切りがあるので留意して使いましょう。

「トマト食べたいニャ」

撮影：小森田 隆弘 様
第11回 未来に伝えたい農業・農村の風景
フォトコンテスト入選作品

発行／熊本県農業者政治連盟
熊本市中央区南千反畑町2-3　電話 096-328-1284
編集責任者／中村　隆宏
●発行日／令和5年7月15日・毎月1回15日発行
●定価／1部50円（但し、会員の購読料は会費の中に含む）